



会長挨拶

大西 隆
日本学術会議会長

日本学術会議は、人文・社会科学、生命科学、自然科学、工学の分野を包摂する日本の科学者コミュニティの代表機関として、科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ることを任務として活動しています。なかでも「持続可能な社会の構築」については、学術研究の立場から幅広く継続的に検討を重ねてきており、その一環として「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」を開催してきました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、日本の科学者に対してきわめて深刻な問題を提起しました。未曾有の大震災を受け、科学者コミュニティは今後どのような取組みを行うべきなのか。持続可能な社会の構築に向けた重い課題に応えるためには、多くの専門家が真摯な議論を重ね、具体的な提案を国内外に発信することが大切です。そこで本年の会議のメイン・テーマを「災害復興とリスク対応のための知」とし、3つのセッションを設けました。

セッション1「巨大自然災害の社会経済的影響」では、内外の災害事例に関する知見に基づいて、巨大自然災害に対処する社会経済システムに関する議論を行います。また、「巨大自然災害におけるフードシステムと公衆衛生に関する諸問題と解決策」と題したセッション2では、地域の復旧・復興の問題点やその解決策を学術の見地から提示します。そしてセッション3「巨大自然災害からの復興と持続可能な社会に向けた文化的景観の創造」では、自然災害からの復興計画、技術、政策について論じ、文化的景観を基盤とする持続可能性について議論します。

2003年の初回の会議から10年の節目を迎える今回は、日本学術会議が取り組んできた国際活動を振り返り、次の10年に向けたまとめを行う良い機会でもあると考えております。そこで、日本学術会議会長を3年にわたって務め、「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」を立ち上げるなど、日本学術会議の国際活動を牽引された黒川清先生、IAPの共同議長として、国際的な科学アカデミーの活動をリードしているMohamed H. A. Hassan先生に基調講演をお願いいたしました。

内外の科学者にご登壇いただくこの会議が、ご参会の皆様にとって実り多いものとなることを心から希望いたします。最後になりましたが、ご後援を賜りました国際連合大学、日本経済新聞社に対して深い感謝の意を表して、日本学術会議を代表してのご挨拶いたします。